



報道機関 各位

熊本大学

【プレスリリースのご案内】

焼失した熊本高等工業学校旧本館の謎にせまる －赤煉瓦基礎を発見！－

(概要説明)

2015年4月、熊本大学の黒髪南キャンパスで本部棟（元・熊本高等工業学校二代日本館（以下、「新本館」という。））の改修に係る工事に伴い、同学埋蔵文化財調査センターによる発掘調査が行われました。この調査の過程で建物内外から、赤煉瓦積みの基礎が複数個所で発見されました。これら赤煉瓦基礎は、同大学工学部の前身にあたる熊本高等工業学校（1906～1944年）の初代本館（以下、「旧本館」という。）として、1908年に竣工した2階建（一部3階建）木造校舎の基礎に相当します。新旧の建物は奇しくも関東大震災を挟んで激変した日本の建築の歴史を見事に物語っています。

本センターでは、この発見に伴い、4月17・18日の二日間、現地説明会を開催し、発掘調査の成果の一部を公表します。また、4月17日は月に一度の工学部研究資料館の開館日であり、こちらでも同時に見学することができます。工学部研究資料館には旧本館の設計図が展示されており、実際の遺跡の状況と実物の設計図を同時に見られるまたとない機会となっています。ぜひ皆様にご高覧いただきたくご案内いたしますので、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしく願いいたします。

(説明)

熊本大学黒髪南キャンパスの正門を通ると、目の前には本部棟(新本館)が重厚な姿で佇んでいます。新本館は、熊本大学工学部の前身である熊本高等工業学校の本館として、1925年(大正14年)に竣工した3階建鉄筋コンクリート造校舎で、1988年には登録有形文化財にも指定されています。しかし、新本館が二代目であるということは、あまり知られていません。熊本高等工業学校の初代本館(旧本館)は、1908年(明治41年)に竣工しましたが、わずか14年後の1922年(大正11年)、出火により全焼してしまっただけです。

本年4月、新本館の改修に係る工事に伴い、同学埋蔵文化財調査センターによる発掘調査を実施したところ、熊本高等工業学校の旧本館である2階建木造校舎(一部3階建)の基礎と考えられる赤煉瓦積みの基礎が、建物内外の調査区で発見されました。赤煉瓦基礎は部分的な破壊を受けているものの、

全体的に残りがよく、積み方やその配置から、焼失した旧本館の姿を検証することができます。今回見つかったのは、建物の西端と中央南部の基礎と想定でき、各地点で異なる様相が確認できました。また、新本館内部の地表面からは、灰や炭の混じった土が検出され、ガラスや金属片、焼けた木片なども見つかっており、1922年の火災など、大学史の文献記載と合致する点があります。この火災に加えて、翌年の1923年には関東大震災が起こり、耐震上の問題から、赤煉瓦を使用しない鉄筋コンクリートによって新本館が建築された、という歴史的な経緯があります。

今回の発見により、①旧本館の建築②出火による全焼③新本館の建築の一連の流れを考古学的に復元することができました。建築学的にも、大学や地域の歴史を復元研究の上でも重要な成果といえます。明治期から大正期にかけて、日本における近代工業化が促進される中、実業教育の必要性に対応する形で設けられた熊本高等工業学校の中心部であるこの建物の歴史について、大学内外に広く周知できればと考えています。



写真 1 : 赤煉瓦基礎の発掘調査



写真 2 : 本部棟南側の赤煉瓦基礎



写真 3 : 破壊を受けた赤煉瓦基礎



写真 4 : 火災の痕跡と赤煉瓦基礎